

木製なら何でも受注

IPで注文海外、全国から

村上市岩船北浜町「中島木箱工場」 造船所から転換 技術引き継ぎ

ビジネス

村上市岩船北浜町にある「中島木箱工場」(中島洋巳代表)は、宝箱や巣箱、収納箱など木で作れるものは何でも手掛け、全国各地の個人や企業から多くの注文が寄せられている。

中島さんは同市三日市生まれの59歳。腕のいい船大工だった父が営む造船所で、子どものころは廃材や大工道具を使って小さな模型の船を作るなどして遊んでいたという。木はごく身近な存在だった。高校卒業後は市内の電気店に勤務したが、20歳のとき造船所で

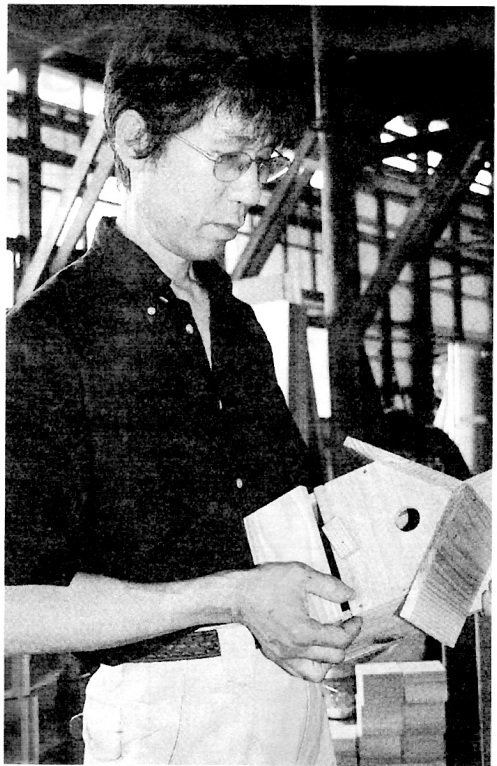
父の仕事を手伝い始めた。そのころ、造船は木造からFRPという強化プラスチックへの移行が進み、船の受注は減少。父はある牛乳店からの依頼で、木製の受け箱や輸送箱なども作り、約40年間、本格的に木箱制作に転換しようとする造船所の工場をそのまま使用し「中島木箱工場」が誕生した。

2代目の中島さんは制作のかたわら「他社よりも安く」をウリに、新発田市や県内の大手牛乳メーカーへセールスに。その後、安さと出来栄などが口コミで広がり、静

岡から北海道まで続々と受け箱の注文が舞い込み、仕出し箱やパン箱などの制作も行っていった。め、多いときは月に約5000個もの生産に追われたという。

しかし船に続き、10年ほど前から牛乳の受け箱も木製からプラスチックへ。それでも「木の良さ」を求める人はいるはずとあきらめず、平成14年ころ知人の提案でホームページをリニューアルし、自社商品や手づくりキットなど多種多様な商品を紹介し始めた。現在は海外からも声がかかるという、注文も増えた。

中島さんは「塗装も印刷もした。それがよかったのかな」と微笑む。「お客さまと一緒に考えていると、新しいアイデアやコミュニケーションも生まれる。今まで人に助けられてきた。喜んでもらえる作品をと日々作る喜びを感じている。



完成した巣箱を手に取る中島さん。焼き色を付けアレンジすることも。